



★2021年10月～12月の予定★

【事務所関係者】

アンマン勤務

(JICAヨルダン事務所内)

宮原 千絵 所長(ヨルダン事務所所長兼務)

柳 竜也 次長(ヨルダン事務所次長兼務)

今村 誠 職員(ヨルダン事務所兼務)

洲鎌 かおり 職員(ヨルダン事務所兼務)

高島 淳 企画調査員

宮越 麻衣子 企画調査員

高井 史代 企画調査員

【公休日】

10月6日 October war

10月19日 預言者ムハンマド誕生日*

12月29日 本邦行政機関の休日

12月30日 本邦行政機関の休日

*上記は、イスラム暦のため、変更になる可能性があります。

「アハバール・カシオン」

～名前由来について～

「アハバール」とはNewsを意味するアラビア語。「カシオン」とはダマスカスの北に位置する旧約聖書にも記されている山の名前です。

◇アハバール・カシオンのバックナンバーは以下URLよりご覧いただけます。
<https://www.jica.go.jp/syria/office/others/>

●事務所から

2011年4月28日以降の関係者国外退避に伴い、JICAシリア事務所は現在JICAヨルダン事務所内に日本人所員執務所を設けています。

本号では、下記活動をご紹介します。

●レバノンJICA帰国研修員同窓会 2020年度活動報告:

「レバノン「救急・大災害医療セミナー」フォローアップ協力第2回ワークショップ開催」

●シリアJICA帰国研修員同窓会 2021年度活動計画:

「水耕栽培農業及び乳製品加工に係る機材供与とワークショップの実施」

●レポート:「ベイルート港爆発事故から1年」

●レポート:「シリアにおける保健医療状況」

★コラム:“Aleppo Pistachio the Golden Tree of Syria”

●レバノンJICA帰国研修員同窓会 2020年度活動報告

「レバノン「救急・大災害医療セミナー」フォローアップ協力第2回ワークショップ開催」

2021年7月28日から30日の3日間、ベイルート市の каранティナ公立病院で、「救急・大災害医療セミナー」フォローアップ協力の第2回ワークショップを開催しました。ワークショップ最終日に催した機材引渡式典には、在レバノン日本国大使館の大久保大使にもご出席いただき、数多くの困難な状況下で医療サービスの提供を継続する、同病院関係者への激励メッセージもいただきました。



каранティナ公立病院でのJICA供与機材引渡式(大久保大使は写真右)

каранティナ公立病院は、2020年8月4日に発生したベイルート港の爆発現場から約0.4kmに位置しており、爆発の影響で建物が損壊、また多くの医療用資機材も使用不能となりました。同病院は、レバノンの貧困層やシリア難民等も利用する医療機関です。本協力では、医療従事者がコロナ禍でも安

全に医療活動を行い得るよう、また医療・検査用機器を有効活用出来るよう、個人用感染防護具(医療用マスク、ガウン、ゴーグルなど)、血液検査機器、血液バンクシステム、アフエレーシス装置を供与し、併せて医療従事者に研修訓練も行いました(支援規模は約17万5千ドル(約2千万円)相当)。今回の第2回ワークショップに参加した医療従事者数は75人、今年4月9日と10日開催の第1回ワークショップの参加者数は150人で、合計参加者数は225人でした。今後同病院の多くの利用者が、本協力を通じ向上した医療サービスを受け、早期回復に繋がればと願っています。

なお、本協力は、困難な状況下のレバノンに、JICAの在外事務所が無い中でも、活発に活動を継続しているレバノン帰国研修員同窓会(LEBA-JICA)の協力が無くしては、実現が困難でした。LEBA-JICAは、まさに我々にとって現地の目や耳、手足となって、支援ニーズの確認、公衆衛生省担当者や病院関係者間の連絡調整、医療資機材の調達先の確認や情報提供、加えてワークショップ開催のための手配等を行ってくれました。令和2年度に外務大臣表彰を受賞した帰国研修員同窓会としての活躍は、やはり目を見張るものでした。LEBA-JICAが

把握した現地支援のニーズを、LEBA-JICAとシリア事務所が二人三脚で遠隔での協議を重ね立案、修正、実施出来、非常に有意義な取組を実現出来ました。

なお、本協力が極めて円滑に実施されたかのような印象、誤解を与える恐れを避



医療従事者へのトレーニング

けるため、以下少し補足させていただきます。レバノンがトリプル・クライシス(経済崩壊、公共政策問題、腐敗と汚職)と表現される前、2019年の10月頃から、レバノンの政治経済状況は悪化の一途を辿っており、その下降は底を打たぬまま今も継続しています。通常、大規模自然災害の発生や武力紛争の終結に伴い、復興開発支援を行う場合には、支援実施環境が徐々に改善されるのが常です。しかしレバノンの場合には、逆に日を追う毎に政治経済、治安情勢がより困難な方向に進み続けています。本協力を形成・実施するために必要な、現地状況の確認、関係者や業者との直接

協議、資機材の調達手続き、要員の確保等は、現地情勢の悪化で大きな影響を受けました。振り返れば、LEBA-JICAとJICA、支援を受ける側の公衆衛生省とカランティナ病院側も、柔軟性と忍耐力が試された1年だったと思います。本協力の実現に向けた、LEBA-JICAのジャウダット・アブ・ジャウデ会長とカマル・モクダット氏の多大な貢献に、改めて深く感謝したいと思います。

レバノンの政治経済情勢が早期に安定し、そこに住む全ての人々が一日でも早く再び安心して暮らせるようになることを願うばかりです。

(企画調査員 高島 淳)

●シリアJICA帰国研修員同窓会 2021年度活動計画

「水耕栽培農業及び乳製品加工に係る機材供与とワークショップの実施」

世界的に最も複雑で甚大な人道危機に瀕するシリア国内の課題に対し、シリアの帰国研修員同窓会メンバーは、各々の知見・ネットワークを活かし、これまでに様々な分野で可能な範囲での支援に取り組んできました。

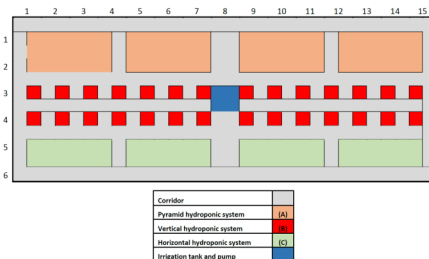
本年度は、「水耕栽培システムの設置とその活用方法に関するワークショップの実施」と、「障害児童支援施設への乳製品加工機材供与及び技術習得ワークショップの実施」という、2つの活動を計画しています。何れの取組も、過去にJICAの研修を受けた研究所員や、JOCV等と共に障害者支援に関わっていた施設の職員等の発案によるものです。

水耕栽培システムは、シリア国内の水不足の問題に対し、節水灌漑農業の普及を目的とするプロジェクトに関わった研究所員が、当時本邦での研修時に視察した水耕栽培農業を、シリアで普及すべく試みたいとの声を同窓会が受け取り、その実現に向けて取り組む事となりました。元々シリアは水資源が不足がちで、更に現在では電力供給も非常に不安定なため、国内では農業、食糧生産にも大きな影響が生じています。そのような厳しい現状が、持続可能な方法を模索し挑戦しようとする強い気持ちを、一層後押ししているのかも知れません。水耕栽培システムで育てられた食物と、同システムの利用方法に関する研修員の

経験が、今後も引き続き拡大が懸念される食糧危機を乗り越える、足がかりの一つになればと期待しています。



水耕栽培システムイメージ図



水耕栽培システム設置予定図

そしてもう一方の取組は、脳性麻痺を持つ青少年らが通う障害児童支援施設への、乳製品加工に必要な、彼らの技術習得に向けたワークショップの実施と、関連する機材の供与です。この取組は、かつてシリアの障害児童支援施設に派遣されていた、JOCVの活動先であった施設の施設長の発案によるものです。彼女自身が脳

性麻痺を持つ1人として、障害者の支援に携わる中で、「脳性麻痺障害者支援施設に通う青少年に対し、コミュニティ内に潤沢にある牛乳を用いた乳製品の加工方法を習得するためのワークショップを行い、ゆくゆくは生計向上につなげて行きたい」との思いで、同窓会に提案してくれました。



乳製品加工機材設置予定場所

シリアの人々は、過去10年間、治安上の危険と人道面での脅威にさらされてきました。更に2021年は、最も危機的な状況を迎えているといわれています。同窓会による本年度の活動が、無事に行われ、人々の生活環境が少しでも改善されるよう、温かい目で見守って貰えると幸いです。

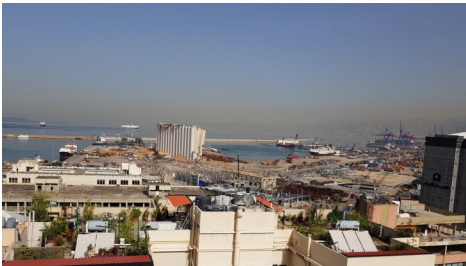
(企画調査員 宮越 麻衣子)



●レポート

「ベイルート港爆発事故から1年」

2020年8月4日に、ベイルート港で貯蔵中の硝酸アンモニウム552トンが大爆発し、200人以上が死亡、7千人以上が負傷するという大惨事が生じました。爆発に伴う爆風で、爆心地から数km内の窓ガラスがごとごとく破壊され、多くの建物が損壊、道路はがれきだらけになりました。当時、日常的に連絡をしていた現地スタッフや委託契約先の関係者、帰国研修員同窓会、現地日本大使館、国連機関の同僚等の安否を、早急に確認出来、安堵していました。しかし後日、多くの関係者からは、爆発被害で居住先や事務所等が当面使用出来ない、復旧にも時間を要す見込み等といった話を、度々耳にしました。新型コロナウイルスの感染拡大、政治経済危機、更にベ



爆発後のベイルート港
(写真中央の白い建物が爆発場所)

イルート港爆発事故と、レバノンには大きな問題に連続して直面した1年余りでした。

なお、シリア事務所が契約しているレバノンの現地スタッフは、爆発事故発生日の1か月程前まで、ベイルート港が見える商業施設のビル内に、小さな執務室を借りていました。しかし、現地情勢の悪化等も踏まえ、非常時に備えてより安全な場所に変更しており、大きな被害を免れることが出来ました。後日、現地スタッフが以前の執務室を見に行くと、爆風でガラス窓が粉々に吹き飛んでいたとのことでした。もしこの爆発時に、我々邦人スタッフもレバノンに出張していたら、大きな被害や影響を受けたに違いないと思われます。安全を最優先に、必要な予防措置や危機管理対応を図る等という観点で、シリア事務所は因らずも非常に良いタイミングで適切な判断をしたと思われました。

私は、ベイルート港爆発事故のニュースを、新型コロナウイルスの感染拡大で一時退避中の日本で聞きました。あまりのことに、頭の中が真っ白になる感覚を覚えました。事故を遡る1年前から、ハリーリ内閣の

総辞職で政治的空白が生じ、続いて公的債務の不履行、現地通貨の急落等、政治経済と社会基盤が既に崩れ始めていました。爆発事故の報道を聞き、レバノンに住む人々の状況を思い本当に悲しくなり、また矛先の向け先が分からない憤りと絶望感が入り混じる心境でした。

現在も続く経済危機では、国際的な支援の取付やその実行を担う内閣が、14か月の空白を経て成立しました。現地通貨の価値は危機前の10%程に下落、かつては中進国でしたが今では国民の75%が貧困に喘ぐ状況です。そのような状況下でも、レバノンの多くの人々は、引き続き強さを維持しているように見えます。15年に及ぶ内戦を経験した中高年世代が健在なことも、その一因かも知れません。元々、レバノン人は机と椅子があればビジネスを始めるとさえ言われます。レバノンに踏み留まる若い世代への、積極的な支援が重要です。中東地域や他の国々に居る優秀なディアスポラの協力も得つつ、レバノンが早く復興に向け歩み始めることを願っています。

(企画調査員 高島 淳)

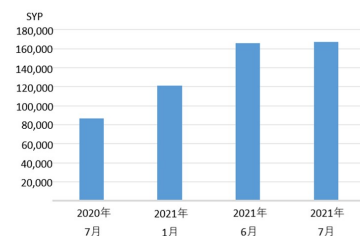
●レポート

「シリアにおける保健医療状況」

シリア経済は、10年以上の紛争で物的・人的資産の多くを失ない、2011年から2018年にかけてはGDP成長率平均-12%と悪化の一途を辿っていました*1。そこに、レバノン情勢の悪化、新たな経済制裁、コロナ禍等が加わり、既に脆弱だった社会経済が一層逼迫し、医療サービスを含む社会基盤が半ば麻痺した状態となっています。様々な報告書が示す、国内の保健医療事情の現状や課題等も参考に、更に現地の方の声を皆様にもお伝えすべく、シリアの同僚から話を聞きました。

宮越: 2020年以降、人々にとって最大の課題の一つは、食糧の入手が非常に困難になっている事だと思います。現地通貨(以下、SYP)の価値下落*2後、WFP(国連世界食糧計画)が標準的基準とする、一人あたりの食糧バスケットの価格は、2021年7月

時点で一年前の約2倍、165,932 SYPに上昇しています(下記グラフ参照)。この食糧価格の上昇は、生活や健康面にどのように影響していますか？



全国平均食糧バスケットの価格推移(SYP) *3

マラハ: 約10年前にシリア危機が始まって以来、食品価格は最も高額です。例えば、羊肉は、1kgで43,000 SYPと、平均的な給与額一月分に相当します!! 牛肉も高額で購入出来ない為、より安価な鶏肉が購入されていますが、鶏肉も1kgで10,000 SYP

と、10年前と比較し非常に高額です。果物や野菜は、人々が購入量を抑える、或いは購入を諦めなければならないような状態です。そのような危機的状況に対応する為、人々は例えば品質が悪くとも、政府の補助金付で低額な米や砂糖を購入可能な機会を待ち続けざるを得ず、栄養失調や糖尿病状態の人々が増えています。

宮越: 今後も現在のような食糧価格の高騰が継続する場合、人々への影響が更に深刻化し、医療サービスへのニーズが一層大きくなる事が憂慮されますね。シリアは紛争で医療施設の約半数が破壊され、部分的に機能中の医療施設が多く、更に専門医の数も限られ、医療サービスへのアクセス向上が喫緊の課題です。そのような中、国連機関やNGOが、人道支援とコロナ対応支援を併せて継続中だと思

ますが、実際の人々による医療サービス・医薬品へのアクセス状況は如何ですか？

マラハ: 治安の問題で、プライマリーヘルスケアレベルでの母子保健サービスと、慢性疾患患者による医療サービスへのアクセスが、難しくなっています。多くの慢性疾患患者の診療が、先延ばしにされる、または断続的に行われる状態で、次の診療の順番を待つ間に症状が悪化する事が、非常に懸念されています。また、経済制裁の影響で、メンテナンスに必要な医療器材の交換用部品や医薬品・医療物資の輸入が出来ず、医療サービスの質の低下、手術の待機期間延長に繋がっています。

宮越: 数年前と比較し、国内の大部分の治安はある程度安定しつつありますが、今尚治安の不安定な地域、或いは遠隔地

に暮らす人々による、保健医療サービスへのアクセス状況は如何ですか？

マラハ: そのような地域には、モバイルクリニックが訪問、若しくは設置された野外病院等を通じ、医療サービスが提供されています。しかし、迅速かつ高度な治療を求め、遠隔地から首都の私立病院を訪れる患者もいます。その場合、交通費や治療費、医薬品の購入費用が、患者やその家族にとって大きな負担・障害となっています。

宮越: 食糧の購入すらままならない世帯の人々にとって、治療費や医薬品の購入、リファレルサービス、交通費等を自費で賄う事は、非常に難しそうですね。それらの人々が頼みとする、国立病院やプライマリーヘルスケア、NGO等の提供するサービス強化、人材育成を含むアクセスの向上が、喫

緊の課題であると、改めて感じました。現地事情の共有、ありがとうございました。

今回、同僚から聞き取ったシリアの保健医療の現状を、一部ですが書き記しました。これらは、当然ながら国内保健医療に関する問題の、ほんの一部に過ぎません。現在も国内が複数に分断されたままで、医療施設が戦闘に巻き込まれる、或いは武装勢力による給水施設占領に伴い飲料水供給が中断され水系疾患が増加する等、様々な問題が生じ続けています。そして、国外には難民として暮らし続ける数百万人のシリアの人々が、母国に安心して帰還出来る日を夢見ているはずで、彼らの希望する未来に繋がる取組とは何なのか、この21世紀最大規模の人道危機に対し我々に出来ることは何なのか、私たちは問い続け、考え続けたいと思います。

(企画調査員 宮越 麻衣子)

¹: <https://openknowledge.worldbank.org/bitstream/handle/10986/32219/WPS8967.pdf?sequence=4&isAllowed=y>

²: 紛争開始当初1USD=40~50SYPであったが、2021年7月時点の市中レートは1USD=3,210SYP。

³: WFPレポートを基に筆者が作成 (WFPレポート:<https://reliefweb.int/sites/reliefweb.int/files/resources/WFP-0000130975.pdf>)

●コラム/Column

“Aleppo Pistachio the Golden Tree of Syria”



The companion of young ladies... decorates dishes on public and private occasions.. Eyes look at before hands reach it... The sound of its cracking is known to the ears... and its distinctive touch is known to the fingertips... It decorates dessert dishes and even raises its price, and it's okay to add it over a delicious plate of rice on the lunch table...

It was planted in honor of goodness and good omen, and poets mentioned it in their poems, and likened the openings of its fruits to the beautiful smiles of charming young ladies. It is the Aleppo Pistachio; the name itself is enough to raise in minds the smell of Arabic sweets of Aleppo in addition to the traditional ice cream and candies.

The Pistachio tree has been grown in Syria for centuries. There are some trees aging more than 500 years in Ain-EI-Thainah near Damascus. Traditionally, Aleppo, which is in the northern part of Syria, is the main pistachio growing area. Recently there is a rapid expansion

around Hama and at the southern region near Suweida. This tree occupies about 6% of the total area of fruit trees in Syria. There are twenty-five types of pistachio fruits, the most important of which is Al-Ashouri and its color is red, and it is the most marketed and most cultivated.

The pistachio trade and the manufacturing of various kinds of sweets and foods using its fruits, flourish in Aleppo. For these reasons, the pistachio was known as the Aleppo pistachio, and this name became popular in various parts around the world. The pistachio tree is witnessing a great development in Syria within the comprehensive agricultural renaissance, as then, Syria ranks fourth in the world production. The pistachio trees are included in the medical, aromatic and food industries, and are considered of great economic profitability due to the existence of internal and external markets for their fruits, in addition to the low cost of their service and their good adaptation to areas

with high temperatures. That is why farmers call it the golden tree. At this time every year, pistachio farmers start picking the “red gold” fruits until the end of September. Syria's production of pistachios for this season is estimated at 45 thousand tons.

During the war days, Pistachio fields have been neglected and suffered a lot. The trees need continuous pruning, three or four times a year and insecticides two or three times. Some pistachio fields in Syria were destroyed. Beside, the production decreased a lot, due to the inability of farmers to reach their lands and take care of their crops.

As it was mentioned by the historians who accompanied Alexander the Great during his conquests in the East, the Aleppo Pistachio tree will remain the golden tree that distinguishes Syria and tells about its great ancient history.

(Marah Morad, Senior Program officer)

ホームページ
www.jica.go.jp/syria/index.html

お問い合わせ先 (E-mail)
sr_oso_rep@jica.go.jp

お知らせ

アハバール・カシオンへのご寄稿、ご感想およびお問い合わせは、メールで受け付けています。

編集後記

日本人職員が勤務するヨルダンでは、9月1日以降、2月下旬から続いた外出禁止時間が完全撤廃され、学校は対面授業を再開、公共交通も乗車率の制限がなくなるなど、コロナ前と同じ生活に近づいてきています。本コラムにもありますが、シリアではピスタチオの収穫期になりました！当地でも8月末からシリア産の生ピスタチオが出回り、産地近郊ならではの季節の土地の恵みをいただけます。ただし、近年シリアでは収穫量が減少し、またその多くは輸出され、現地では高額となっているとの報告もあり、複雑な思いがします。(洲鎌)